

## 報告テーマ『カンボジア経済と貧困問題』

鹿児島国際大学大学院経済学研究科博士後期課程

永吉 敬太

はじめに 報告の目的

### 1.カンボジア経済について

表 1-1.カンボジア、ラオス、ベトナムの基礎指標

表 1-2.実質 GDP 産業別構成比

表 1-3.産業別就業人口

### 2.カンボジアの貧困の特徴

#### 2-1.所得貧困による分析

表 2-1.近隣諸国との貧困に関する指標の比較

表 2-2.貧困推計表

表 2-3.世帯主の職業による貧困の出現度の比較

#### 2-2.潜在能力の概念による分析

2-2-1. アマルティア・センの潜在能力アプローチ

2-2-2.カンボジアの母子保健状況

表 3.カンボジア・ラオス・ベトナムの主要保健指数比較

2-2-3.カンボジアの保健制度

(1)カンボジアの保健行政区分

(2)カンボジアの保健・医療人材

(3)地方農村部の保健状況と問題

おわりに 結論と今後の課題

## 報告の概要

### (1) 報告の目的

- ① カンボジア経済についての特質を把握すること。
- ② カンボジアの貧困についての問題点を浮き彫りにすること。

### (2) 議論の背景

- ① カンボジアは海外からの援助に依存している。
- ② カンボジア経済の成長要因は、製造業（縫製品輸出）や観光業によるものである。

### (3) 分析の視点

- ① カンボジア経済状況を、産業構造、雇用状況から検討する。
- ② カンボジアの貧困について所得貧困、また潜在能力アプローチから考察し、潜在能力の概念より、最も貧困に脆弱である女性と子どもの現段階でのカンボジアの母子保健の現状について考察する。

### (4) 主張点

- ① 製造業、観光業による成長は都市部にのみに恩恵をもたらし、地方農村部との格差が広がっている。しかしながら、製造業による産出高を増大させたものの、GDP 構成比率や、産業別就業人口は農林漁業に比べるといまだに低い。
- ② 潜在能力の剥奪状況を示す最も有力な指標である乳児死亡率をみると、カンボジアの国全体においては、改善しているが、都市部と地方農村部では大きな格差がある。

### (5) 結論

国連開発計画は、人間開発報告書 1996 の中で、「人間開発は目的であり、経済成長は手段である。したがって、成長の目的は人々の生活を豊かにすることにある。」<sup>1</sup>と、経済成長は人間開発の一側面であるとしている。現段階でのカンボジアの経済成長と貧困との関係は、経済成長は一部の人々のもとにしか恩恵をあたえておらず、また、アマルティア・センの主張する<sup>2</sup>、人間開発を実現することが経済や工業の発展に拍車をかけ、その効果を改善しながら市場経済の規模を拡大するといった、好循環にも至っていない。

---

<sup>1</sup>United Nations Development Programme *Human development report 1996* Oxford university press,1996. p.1 (国連開発計画(UNDP) 『人間開発報告書 1996:経済成長と人間開発』 1 ページ)

<sup>2</sup> Sen, Amartya Kumar, *Beyond the crisis : development strategies in Asia*, Institute of Southeast Asian Studies, 1999 (大石りら訳 『貧困の克服 アジア発展の鍵は何か』 集英社,2002. 28~32 ページ)。